２０２２年２月２７日（大斎節前主日、Ｃ年）牧師メッセージ
「そこにはイエスだけがおられた。」

（ルカによる福音書 9:28-36）

司祭ヨセフ太田信三

モーセは律法を、エリヤは預言者を代表し、二人で旧約聖書を象徴していると言われます。その二人と主イエスが山上にて、「イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最後について」話しをしています。ここで「最後」と訳されているのは「エクソダス」という単語です。聖書でエクソダスといえば出エジプト記のことで、「脱出」という意味をもちます。今日の箇所では、エクソダスは主イエスの最後、つまり十字架の出来事を表しています。しかしなぜ、十字架上の死が「脱出」なのでしょうか。なぜなら、十字架上の死は終わりではなく、復活、昇天、聖霊降臨へと続いていく出来事であり、主イエスの死と復活によって、わたしたちに死から解放された命への道が開かれるからです。三人が語り合っていた、「エルサレムで遂げる最後」とは、最後であると同時に最初であり、この「最後」において、律法、預言者を通して表された神の愛が、救いがまことに実現するのです。

モーセとエリヤは雲に包まれて居なくなってしまい、恐れる弟子たちに天からの声が聞こえました。「これはわたしの子、選ばれた者、これに聞け」
ここでの「聞く」というのは、「聞き従う」という意味が含まれています。山上で栄光に包まれた主イエスがこれから歩むのは、十字架への道です。これからペトロたちが聞き従って歩む道は、十字架への道なのです。その歩みを共にする中でこそ、彼らは神の愛と救いに与ることになるのです。

いよいよ迎える大斎節。わたしたちもペトロたちと共に、「これに聞け」と神が言われた、主イエスと歩みを共にし、十字架の死と、そして復活の出来事に立ち会おうではありませんか。主イエスと共にある歩みにおいてこそ、わたしたちは今日の使徒書で「最も大いなるもの」と言われる、誠の愛を知ることができます。